

第 22 回(平成 30 年度第 4 回) 環境振動予測解析小委員会議事録

A. 日時 2018 年 10 月 23 日(火) 17:00~18:50

B. 場所 (一社)日本建築学会 建築会館 306 会議室

C. 出席者 主査 他 6 名

D. 提出資料

No.22-0 環境振動予測解析小委員会(第 22 回) 議題

No.22-1 第 21 回(平成 30 年度第 3 回) 環境振動予測解析小委員会 議事録(案)

No.22-2-1 環境振動運営委員会 2018 年度第 3 回議事録(案)

No.22-2-2 環境振動予測解析小委員会 活動報告(案)

No.22-2-3 小委員会廃止申請書、設置申請書、2019 年度活動計画案

No.22-2-4 環境振動シンポジウム WG 第 2 回議事録(案)

No.22-2-5 環境振動設計指針策定 WG より

No.22-3-1 事例 3 の予測方法

No.22-3-2 事例 3 と事例 2 の連携について

E. 審議事項

1. 前回議事録 : No.22-1 主査修正案で承認された。
2. 環境振動運営委員会・シンポジウム検討 WG より : No.22-2-1~No.22-2-4
 - ・主査より運営委員会等の内容について報告(2019 年大会の投稿締切・開催期間、測定分析マニュアルへの意見等(12 月まで)、「居住性からみた環境振動評価に用いる標準的な判断範ちゅうについて」の HP アップ、各小委員会の次年度計画、設計指針の講習会開催予定時期、評価規準講習会の申し込み状況・懇親会、継続時間に応じた振幅低減の呼称(評価規準では低減率、設計指針では低減係数)、若手優秀発表受賞者、シンポジウム内容)。
3. 環境振動設計指針策定 WG より : No.22-2-5
 - ・主な議題はシンポジウムへ向けた内容の確認、性能マトリクスや低減係数等。各 SWG の報告後、意見交換を行った。
⇒シンポジウム発表者が決定。シンポジウム原稿や指針本文が解析テクニクに偏らないよう注意されている。
4. 事例作成の進捗、内容確認について : No.22-3-1、No.22-3-2
 - ・事例 3 (地盤上加振) について、これまで実施してきた詳細な予測法(薄層要素法+FEM)に、2つの予測法(距離減衰+入力損失+FEM または質点解析)が加わり、事例 3 は3つのモデル(簡易~詳細)で取りまとめる。
 - ・事例 3 の詳細予測事例について、各柱脚に基礎上の位相差入力をを用いた予測解析を実施(これまでは全柱脚同位相入力)。
⇒結果の考察途中であるが、前回(同位相)より今回(位相差)の方が応答値は小さくなり、最大値では実測値と近い結果が得られている。応答加速

度波形は前回の方が実測波形の形状と似ている。

- ・建物と測定結果の項目についても進捗を報告してもらいたい。これまでに提示された結果だけでもかなりの量があると思われるので、成果報告書のとりまとめへ向けて整理してほしい。

5. 次回の議題、宿題

- ・各事例の作成、進捗報告（各事例、測定結果ともに、成果物案を提示する）

F. 次回予定 2018年12月17日(月) 17:00～ 建築会館会議室

以上